



ふじみ野市

# 文化財だより 第2号

発行日 令和3年6月1日  
発行者 ふじみ野市教育委員会  
社会教育課文化財保護係  
TEL 049-220-2088  
FAX 049-261-5100

bunkazai@city.fujimino.saitama.jp



市指定無形民俗文化財のお囃子

- ①大井はやし (大井上組囃子保存会)
- ②大井旭はやし (大井旭囃子保存会)
- ③苗間はやし (苗間囃子保存会)
- ④亀久保はやし (亀久保囃子保存会)

## 地域の夏まつり 天王様

てんのうさま

コロナウイルス感染拡大により、「アマビエ」など疫病退散にご利益がある神仏等が注目されました。市内で7月中・下旬に行われる「天王様」も、疫病退散などを祈願した祭です。

「天王様」は、京都の「祇園祭」と同様、八坂神社や八雲神社の祭神でもある「牛頭天王」を信仰する祭で、夏に発生しやすい疫病や災厄、病虫害などの退散を祈願しました。市内に残る文政7(1824)年6月の古文書に「祇園祭礼」と記されていることから、天王様は江戸時代から続いていることがわかりますが、多くの地域では現在、道路や地域の事情等により、祭の中断や巡行内容の変更をしています。かつては、子ども達が祭の準備をし、元気に神輿を担ぎ、竹ヒゴと染色した和紙でつくった花を配りながら

巡行する様子が見られました。

また、大井・亀久保・苗間地区では、屋台も曳き回し、その屋台の上で「お囃子」を演じて、祭を盛り上げます。

もともと荒ぶる神だった「牛頭天王」を、元気よく、にぎやかな祭で喜ばせることで、ご利益が得られると信じられていました。なお、大井・大井旭・苗間・亀久保の4つのお囃子については、市指定無形民俗文化財に指定し、各囃子保存会に伝統芸能の保存・継承に努めていただいています。

祭に使う花。配る他に、万灯や屋台などにも飾る。



# ●●●● 旧江戸屋の建物調査報告 ●●●●

令和2年7月1日に新河岸川舟運しゅううんで栄えた回漕問屋旧江戸屋かいそうどんやきゅうえどやの土地及び「主屋」・「穀蔵」の建物が市に寄附されました。

現在、教育委員会では旧江戸屋の保存と活用について検討を進めており、今回「穀蔵」の調査を行いましたので、その概要を紹介します。

## ●新河岸川舟運と回漕問屋旧江戸屋

新河岸川舟運は、寛永15(1638)年に川越東照宮とうしょうぐうの再建資材を運搬したことに始まり、正保4(1647)年に川越藩主松平信綱のぶつなが整備をし、川越と江戸を結ぶ水路として重要な役割を担いました。

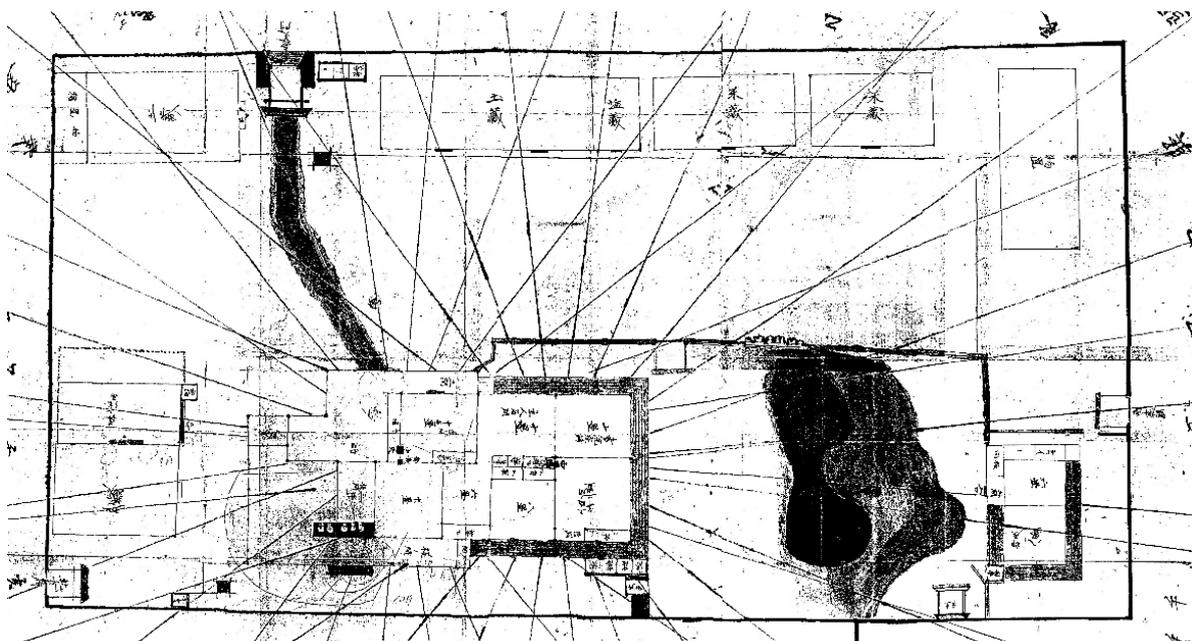
旧江戸屋がある福岡河岸ふくおかがしは、享保18(1733)年頃に福岡村の人々により設けられ、安永2(1773)年に江戸幕府から正式に公認された河岸場です。当初の回漕問屋かいそうどんやは江戸屋(吉野三之助さんのすけ)のほかに、吉野屋(吉野半兵衛はんべえ)、富田門左衛門もんざえもんの3軒でしたが、富田家廃業後、天保2(1831)年に福田屋(7代目星野仙蔵てんぼう)が回漕問屋

を開業し、江戸時代の終わりから明治時代中ごろにかけて最盛期を迎えました。

## ●旧江戸屋に残るおもな建物

旧江戸屋には、現在、帳場(店)のあった主屋、穀蔵、文庫蔵(個人所有)が残っています。

明治26(1893)年の家相図かそうずには主屋、土蔵3棟、塩蔵1棟、米蔵2棟、築山つきやまのある庭園等が描かれており、「穀蔵」は「土蔵」の一つと考えられます。裏付ける資料はありませんが、旧江戸屋最後の当主、故吉野静しずさんによると、主屋は明治3(1870)年の建築で、現存する土蔵のことを「穀蔵」と呼んでいたということです。



明治26(1893)年 江戸屋家相図

## ●旧江戸屋穀蔵調査概要

- ★調査期間 令和2年4月～5月、  
同年12月～令和3年3月
- ★調査者 民俗建築研究所 鈴木清氏  
(ふじみ野市文化財保護審議会委員)
- ★建物規模 梁間2間半×桁行7間  
(下屋奥行2間×長さ7間)

### 穀蔵の特徴1～土台が使われず柱が礎石 上に直接立てられている～

穀蔵の基礎は、切石が布基礎(切石を隙間なく一列に並べた状態)状に据えられ、その基礎石の上に直接柱が立っています。

柱を直接礎石に建てる土蔵の建て方は、上福岡地域では多く目にすることができます。例としては旧回漕問屋吉野屋土蔵(江戸末期～明治10年頃創建と推定)、宮寺家文庫蔵(明治21～22年創建と伝承)と味噌蔵(明治13年創建の墨書あり)などがあります。

### 穀蔵の特徴2～土壁の「返し壁」がない～

通常、土蔵の内壁は、小舞竹(骨組みとなる組んだ竹)やわら縄が見えないように「返し壁」を塗って仕上げますが、穀蔵の内壁にはありません。内壁を板壁にする場合、返し壁をつけないことがありますが、この穀蔵には、壁を保護する荷摺り丸太が先に取り付けられていたため、返し壁をつけなかったと考えられます。

また、壁の内部に組まれた小舞竹の横



旧江戸屋 穀蔵内部の様子

竹は和釘で柱に止められ、他にもいたるところに和釘が使われていました。地域差はありますが、明治21(1888)年頃から輸入された洋釘が使われ始めますので、和釘の使用状況は創建年代を検討する材料になります。

### 穀蔵の創建は?～明治時代ごく初期か～

以上2つの特徴の他にも、穀蔵の創建年代を検討する要素が確認されました。

- ①梁などに瓜剥き仕上げ(木の皮をチョウナで剥いただけの仕上げ)が多い。
- ②出入口に塗籠戸がない(重い戸を動かすための肘金や戸車が未発達か入手困難)
- ③内壁の壁板に斧削りで仕上げられた板が数点あった。

新しい要素はそれほど多くなく、梁に明治期に一般的となる八面取りが少数ながら見られることと、柱貫が全てノコギリで加工され、斧やチョウナ削りのものがないことから、明治時代のごく初期の頃の創建と考えてよいでしょう。

## ◆イベントカレンダー（6月～9月）◆

### 6月

19日（土）	落語会	福岡河岸記念館
26日（土）	お話し会	福岡河岸記念館
27日（日）	貝がらストラップづくり	大井郷土資料館

### 7月

4日（日）	大人の藍染体験	上福岡歴史民俗資料館
10日（土）	古い商家ではたおり体験	福岡河岸記念館
17日（土）	旧大井村役場コンサート	旧大井村役場
17日（土）～8月22日（日）	戦争展 最新出土品展	上福岡歴史民俗資料館 大井郷土資料館

### 8月

2日（月）	子ども藍染教室	大井郷土資料館
4日（水）	夏休み権現山探検 「権現山の大地を探ろう」	上福岡歴史民俗資料館・ 権現山古墳群史跡の森
9日（月）・11日（祝）	土器づくり（2日間）	大井郷土資料館
21日（土）	古い商家ではたおり体験	福岡河岸記念館
28日（土）～9月20日（祝）	戦争展 最新出土品展	大井郷土資料館 上福岡歴史民俗資料館

### 9月

11日（土）	古い商家ではたおり体験	福岡河岸記念館
27日（月）～10月3日（日）	最新出土品展	旧大井村役場

\*開催時間等、詳しくは市広報等でご確認ください。

\*コロナウィルス感染拡大防止のため内容を変更して開催または中止する場合があります。

#### ●文化財日誌（令和3年2月～4月）

- 2月5日～19日 川崎遺跡第57地点本調査
- 2月22日～3月26日 本村遺跡第9地点本調査
- 3月3日～ 西原小学校文化財展示室準備開始  
(毎週水曜日午後)
- 3月27日 はたおり体験（会場：福岡河岸記念館）
- 4月12日～21日 駒林遺跡第42地点本調査
- 4月28日 入間地区社会教育協議会文化財担当者  
部会総会出席（日高市）

市内の文化財・遺跡情報が満載

#### 遺跡情報システム

遺跡情報、指定文化財、  
石造物、神社仏閣などの  
場所や情報を検索できます。

▼2021年4月アクセス数1,065件

(昨年比+477)



#### 近場で楽しもう！文化財ガイド

(表)



(裏)

